

市民が集まり、憩い、楽しめる緑豊かな場所にいたしましょう



森の中の高知駅



高知を愛する皆様へ (30年4月号)

平成30年4月1日

今年は、日本一早い土佐路の桜の開花と満開とが全国に報道され、お花見目当ての観光客が目につきました。駅前も春、4月の活動日のお知らせです。ご加勢歓迎。手袋・スコップなどはお貸しします。

○4月15日(日) 9:00~11:00

南口電停脇「みんなの庭」の手入れ。余力があれば北口駐輪場周りの植栽も。

14:30~15:30

中央公園前の帯屋町筋でチラシ配りと葛岡さんのギターライブです。

なお、5月の活動日は13日(日)、6月は17日(日)を予定しております。

3月のトピックス

○3月10日:高知市が南口電停東側草地に楠の木を植えました。市内薊野(あぞの)の山で育った、樹高約8メートルの大樹です。(写真は作業風景)



○3月18日(日):

午前、南口「みんなの庭」に早くもはびこった草を除きました。

午後、帯屋町でギターライブの傍らチラシを配りました。かわいい助っ人は葛岡さんのお孫さんです。大活躍でしたよ。

(右の写真)



駅前緑化活動はご賛同の方々のご厚志で維持されております。引き続き皆様のお力添え(花苗持ち寄り、勤労奉仕、ご寄付など)をお願い申し上げます。

♥森の中の高知駅♥ 幹事連絡先: 〒780-0042 高知市洞ヶ島町1-11

中田昌志 携帯電話: 090-8849-3651 E-mail: m.nakata@ak.wakwak.com

公文敏雄 携帯電話: 090-7016-3743 E-mail: kumont2@yahoo.co.jp

ホームページ: <http://mori-kochi-ekijimdo.com/>

取引銀行: 四国銀行よさこい咲都支店「森の中の高知駅 代表中田昌志」名義 普通 0709695

クスノキものがたり（駅前シンボルツリー植樹に寄せて）

僕は楠の木。九州・四国・本州南部など温暖の地に広く分布する常緑の高木で、高知の皆様にとっても身近な存在ではないでしょうか（写真①、②、③）。



①龍馬も樹下で遊んだという
天神町のオオクスノキ
（推定樹齢300年）



②追手筋の楠
（戦後間もなくの植樹）



③県庁前通りの楠
戦後長岡村の山から移植
（推定樹齢110年）

でも悔しいことに、春に花を咲かせても（写真④）桜などと違って見向きもされません。夏に実を付け秋に熟しますが（写真⑤）小鳥のエサになるだけ。せいぜい、子供が竹で「楠の実鉄砲」を作って遊ぶくらいで、それも昔のことです（写真⑥）。



④楠の花



⑤楠の実



⑥楠の実鉄砲

そんな僕たちですが、大きく育った幹は、腐りにくく、虫害に強く、加工しやすいという特長から、古くは丸木舟、飛鳥の仏像などに使われたほか、中・近世には荷船・漁船・軍船（安宅船、関船）や建物の材として重宝されました。憶えば、池様ご一族（土佐水軍の将）や長宗我部様にはずいぶん良くしていただきましたし、山内様の藩政時代には、スギやヒノキなど仲間と共に森から伐り出されて上方や江戸に運ばれ、土佐藩の財政に一役買わせていただいたものです。

香りの強い成分は香料、薬品、樟脳の原料となります。とりわけ、枝葉を蒸留して得られる樟脳（火薬やセルロイドの原料となる）は、幕末にかけて長崎貿易の主役に躍り出ました。これに着目した容堂侯のお声がかかりで、後藤象二郎、岩崎弥太郎などが開成館そして土佐商会を通じて盛んに海外に輸出、藩の懐が潤って鉄砲や洋船の買い入れ資金となります。坂本龍馬が「船中八策」を練ったのは、こうして手に入れた船隊の一つ「夕顔」の船上でしたし、「海援隊」への資金援助もやれたわけです。

明治に入ると、弥太郎は藩の商権を引き継いで三菱財閥の基礎を築きます。名野川村（現仁淀川町）生まれの金子直吉も、樟脳事業を足掛かりにして鈴木商店（双日、神戸製鋼、帝人、サッポロビールなどのルーツ）躍進の立役者となりました。

済みません。僕たちのご先祖が身を削ってお国のために尽くしてきた昔話など、今さら申し上げてもせんないことでしたね。ただせめて、駅前はじめあちこちに居場所を頂いている僕たちを、末久しく見守り続けてくださったらこの上ない幸せです。

以上